NIE実践報告

1．タイトル：新聞記事から学ぼう

2．学校名

岩手県岩手町立東部中学校

3．実践者名（代表者名）

小原利彦

4．学年

第1・2・3学年（全学年10人・7人・11人）

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会　28人（全校）

6．単元（本時の学習課題）名

①「社会科新聞を作ろう」、②「新聞記事から学ぼう」

7．目標（狙い）

各学年ごとに設定した領域をもとに、生徒が設定したテーマに関連する記事を選び出し、その記事に対する各自の考え等をまとめることで表現力、資料活用能力、構成力を高める。

8．評価の視点

６-①では、選択した記事を書き写すのではなく、その中に自分の考えなどを明確に表現し、６-②では、記事を選択した理由を明確にさせ、その記事に対する自分なりの意見を自分の言葉でまとめられたかを評価する

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「社会科新聞を作ろう」（教科書教材：学校図書）8時間
「新聞記事から学ぼう」（作文：記事選択）　4時間　合計12時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

１．社会科新聞を作ろう
・新聞記事より新聞の構成や表現力を学ぶ。調査する国や都道府県、出来事や人物を決定する。（1時間）
①1年生は、「地理新聞」として都道府県を1つ取り上げて、記事にまとめる。
②2年生は、「地理新聞」として世界の国々の1か国を取り上げ、記事にまとめる。
③3年生は、「歴史新聞」として歴史上の出来事や人物を1つ取り上げて、記事にまとめる。
＜各学年7時間＞

２．新聞記事から考えよう
・新聞記事を読み、各自が気になる記事についてコメントや感想をまとめる。新聞を見て選ぶ（1時間）
基本的には、1年生は地理、2年生は歴史、3年生は公民に関した記事について気になる記事や疑問に思った記事から1つ選び、その記事について感想を自分の言葉で書く（3時間）

11．児童・生徒の反応、感想・意見

『新聞記事から学ぼう』は、昨年度は『HAPPYニュース』で取り組んでおり『ボランティア』に関する記事が多かった。今年度は社会面、政治経済面、生活面など7分野に分類でき、全校の7割が社会一般の記事に関するものだった。『社会科新聞をつくろう』では、地理・歴史分野とも資料を見つけ出すことが難しかった。

12．成果と課題

昨年度から取り組み始めた『社会科新聞』は、2年目であり比較的取り組みやすく、構成力や表現力が徐々にではあるが身についてきた。よりよい新聞を作成するため、記事の選択に多くの時間を費やす生徒が多くみられた。しかし、「見出しの工夫」という昨年度の課題は、2・3年生は克服したと考えてよい。1年生は、記事の内容のまとめ方についてさらに改善の余地がある。今年度で指定が終了するが、『社会科新聞』は継続して取り組ませたい。また、『新聞から学ぼう』は『HAPPYニュース』という形で継続させたい。